

映画 *Back to the Future* にみる人間関係と呼称・言及の用法について

笠本晃代

0. 序

本稿は、公開から 35 年ほど経過した現在でもなお根強い人気がある映画 *Back to the Future* を題材として、登場人物間の人間関係と互いに対する呼称及び言及の方法を考察することを目的とする。

本作では、「タイム・トラベル」の概念が主軸に置かれ、時代間のギャップを通じて、1950～1980 年代のアメリカ文化が色濃く映し出されている。また、画期的なテクノロジーを描く SF 作品として注目を集めていることは言うまでもない。しかしながら、それと同時に本作品には、家族の絆に焦点を当てたヒューマンドラマとしての側面がある。タイムスリップして自分の両親の昔の姿を垣間見ることで、人には皆子ども時代があったことを改めて我々に気づかせてくれるのである。

本稿では、このような家族関係、そしてその周辺の人間関係を基軸として展開される人物に対する呼称及び言及行為に注意を施し、二つの観点から論を進めていきたい。

1. 親族名称の使用について

作品を通して見ると、直接的な呼称として親子の間柄では、しばしば母親に対する“Mom”や父親に対する“Dad”が見られ、時として“Mother”、“ma”や、“Pop”、“Pa”、そして“daddy-o”が観察される。また、子どもに対しては、“son”と“children”が見受けられる。さらに、間接的な言及に目を向けると、親に対して“mom”、“mother”、“ma”、“Dad”、“father”、“pop”、兄弟に対して“brother”、そして、親子関係以外の親族においては、“Grandpa”、“Uncle”、“cousin”が認められる。

このように様々な親族名称が用いられる中で、ここでは議論すべき特別な用例に限って見ていくことにする。(1)の場面設定は、1985年のアメリカの架空の都市 Hill Valley となっている。

- (1) Linda: Oh *Mom*, there's nothing wrong with calling a boy.
 Lorraine: I think it's terrible. Girls chasing boys. When I was your age I never chased a boy, or called a boy, or sat in a parked car with a boy.
 Linda: Then how am I supposed to ever meet anybody?
 Lorraine: Well, it will just happen. Like the way I met *your father*.

 Linda: Yeah *Mom*, we know, you've told us this story a million times. You felt sorry for him so you decided to go with him to The Fish Under The Sea Dance.
 Lorraine: No, it was The Enchantment Under The Sea Dance. Our first date. It was the night of that terrible thunderstorm, remember *George*? *Your father* kissed me for the very first time on that dance floor...

これは、47歳の母親 Lorraine Baines Mcfly と 19歳になる Mcfly 家の長女 Linda の会話場面である。Lorraine は、娘の面前で夫について話す際に、第二発話で“your father”、そして第三発話でも“Your father”というように、それぞれ“father”を用いている。無論、夫は Lorraine の父親ではない。しかしながら、Lorraine は、話し相手である Linda の立場に立ち、敢えて“father”を選択していると考えられる。ここでは、夫は会話に直接参加していないものの、2人のそばにおり、Lorraine は、彼女の第三発話の途中で夫

にも話しかけている。彼女は、同い年である夫の George Douglas Mcfly との馴れ初めを思い出して話題にし、Linda と話している最中に夫に直に確認する。ここで特に注目されるのは、Lorraine が、夫に対して十分に親近感のあるファーストネームで呼びかけた直後、Linda に報告する際には“your father”、すなわち客観的・第三者的要素のある“father”に Linda の視線を含んだ所有格“your”を加えて、意図的に表現を切り換えている点である。さらに、これらの“father”を用いた言及は、Linda が彼女の第一発話や第三発話で、Lorraine に対して直接“Mom”と呼びかけていることを考慮に入れると、“Dad”ではなく“father”と規定している点で、より一般的な「父親」としての役割が強調される結果となっている。

続けて、以下の Lorraine と Linda の会話場面を見てみよう。

- (2) Linda: That was so stupid, *Grandpa* hit him with the car.
 Lorraine: It was meant to be. Anyway, if *Grandpa* hadn't hit him, then none of you would have been born.

 Lorraine: Anyway, *Grandpa* hit him with the car and brought him into the house...

(2)では、Linda が、この会話場面にはいない祖父の話を持ち出す。彼女が、両親の出会いの発端となった出来事、すなわち祖父が車の前に偶然現れた父親を突発的に跳ねてしまった事故を話題にする時、同居しておらず、この場にはいない祖父を“Grandpa”と表現する。(2)で注目すべきは、この言及の後に、Lorraine も全く同じ言及をしていることである。Lorraine は、“my father”ではなく、娘の発言を引き受ける形で「おじいちゃん」の意味を込めて“Grandpa”を使用している。これにより、Lorraine が娘に近い視線を共有しようとしていることが窺える。

他の親族名称の使用についても検討してみよう。

- (3) Lorraine: *Kids*, we're gonna have to eat this cake by ourselves, *Uncle Joey* didn't make parole again. I think it would be nice, if you all dropped him a line.
 Marty: *Uncle Jailbird Joey*?
 David: He's *your brother*, Mom.
 Linda: Yeah, I think it's a major embarrassment having *an uncle in prison*.
 Lorraine: We all make mistakes in life, *children*.

(3)は、Lorraine が3人の子ども達に話しかけている場面である。彼女は、三男で第5子である服役中の自分の弟 Joey Baines が保釈される予定なのでケーキを準備していたが、保釈が却下されたことを報告している。彼女は、Joey に言及する際、ファーストネームだけで十分に人物を特定できることを、子どもの視点に立って親族名称を用いて“Uncle Joey”と表現している。一方、母親の発言を受けて主人公で17歳の Marty が、Joey を“Uncle Jailbird Joey”と揶揄していたり、Marty の兄で22歳の David がわざわざ“your brother”と言及していたり、さらには Linda も“an uncle in prison”と Joey の存在を遠ざけた表現を選択していることから判断されるように、3人とも Joey をよく思っていない。その為に Lorraine は、自分の第一発話で“kids”、第二発話で“children”と3人に呼びかけて自分達の親子関係を明確にし、自らが子ども達の視点を取り入れることで彼らの理解を求めようとしているものと解釈される。

また、親族名称には、次のような用法も含まれる。

- (4) David: God dammit, I'm late.
 Lorraine: David, watch your mouth. You come here and kiss *your mother* before you go, come here.
 David: C'mon, *Mom*, make it fast, I'll miss my bus...

これは、(3)の後続の場面である。ハンバーガーショップのアルバイト店員である David がバスに乗り遅れそうになり、慌てて汚い言葉を使っている。そこで Lorraine が David をたしなめ、いつものように出かける前のキスをするよう促す。その際に Lorraine は、自らを“your mother”と表現する。勿論、ここでは“me”と言及すれば十分事足りるが、Lorraine は、敢えて「母親」としての役割を強調したいが為に親族名称“mother”を使用し、さらに所有格を付すことで相手に対する親としての役割を存分に発揮している。すなわち、(1)及び(2)は、会話の相手の立場から捉えた第三者を親族名称を用いて言及している例であったが、(3)は話者が自身に言及する為に、本来相手側が用いるであろう親族名称をそのまま使用している例である。尚、Lorraine が自らに“mother”を使用している一方で、David はその第二発話で彼女に直接“mom”と呼びかけていることを考えると、アンバランスな印象を与える。母親を表す正式な名称“mother”を用いることで、この親族名称が担う母親本来の役割がより強調されていると推測される。

引き続き、次の例を検討してみたい。(5)は、1955年にタイムスリップした場面である。

(5) Marvin Barry: John, John, it's *your cousin*. *Your cousin Marvin Barry*, you know that new sound you're lookin' for, well listen to this.

これは、電話での会話である。Chuck Berry¹の従兄弟であるという設定のギタリスト Marvin Berry は、新しい音楽を探している Chuck に電話をかけ、受話器越しに Marty が演奏する Johnny B. Goode²の曲を聴かせ、新曲のヒントを与えている。この時、Marvin は、親族名称“cousin”を用いて“your cousin”と自分に言及する。これにより、電話をかけてきた相手が他の誰でもなく、近い関係に当たる人物であることを明示しようとしており、“cousin”が持つ双方向的な機能を期待しているのである。そして、ここではさらに、互いに相手の顔が見えない中で、Marvin は、自分の存在を際立たせる為に後ろにフルネームを付している。

親族名称の使用に関して、別の角度からもう一つ用例を検討しておきたい。以下では、前出の McFly 家以外の家族を観察してみる。

(6) Marty: Ahh. Ahh.
 Elsie: Pa, what is it? What is it, Pa?
 Peabody: Looks like an airplane, without wings.
 Shaman: That ain't no airplane, look.
 Peabody's: Ahh.
 Peabody: Children.
 Marty: Listen, woh. Hello, uh excuse me. Sorry about your barn.

(6)も1955年にタイムスリップした場面である。この場では、Peabody 一家、すなわち農場経営者で45歳の Otis Peabody と17年連れ添った妻 Elsie、そして発話は見られないが14歳の娘の Marsha と14歳の息子の Shaman が顔を揃えている。ちょうど1985年からタイムスリップして、Marty が乗ったタイムマシンが Peabody 家の納屋に突撃しそうになっている時、Elsie が声を発している。その際に Elsie は、2人の子どもの前で夫に“Pa”と呼びかけている。Peabody が、彼の第二発話で子ども達に“Children”と呼びかけてい

¹ Chuck Berry の名で知られる Charles Edward Anderson Berry は、アメリカのシンガーソングライターであり、ギタリスト。ロックンロールの創始者の一人で、「ロック界の伝説」と敬われる。

² 1958年発売の Chuck Berry の楽曲。ロックンロールの定番の一つとして知られる。

ることからも判断されるように、(6)全体が子どもを中心とした会話になっており、“Pa”という呼びかけもまた、子ども達の存在を視野に入れた直接的な呼称となっている。

2. 個人名の使用について

ここからは、個人名を用いた呼称と言及について考察していく。固有名詞の中では、最も一般的で、広く使用されるのはファーストネームであるが、ここではその用法については割愛する。注目すべきラストネームの用法を取り上げることとし、主にタイトルの使用と関連させて議論していく。

早速、以下の例を概観してみよう。

- (7) Strickland: Doc? Am I to understand you're still hanging around with Doctor Emmett Brown, *McFly*? Tardy slip for you, *Miss Parker*. And one for you *McFly* I believe that makes four in a row. Now let me give you a nickle's worth of advice, young man. This so called Doctor Brown is dangerous, he's a real nutcase. You hang around with him you're gonna end up in big trouble.
- Marty: Oh yes sir.
- Strickland: You got a real attitude problem, *McFly*. You're a slacker. You remind me of you father when he went her, he was a slacker too.
- Marty: Can I go now, Mr. Strickland?
- Strickland: I noticed you band is on the roster for dance auditions after school today. Why even bother *McFly*, you haven't got a chance, you're too much like your own man. No *McFly* ever amounted to anything in the history of Hill Valley.

上記は、Hill Valley 高校での朝の一場面である。この高校の厳格な教頭 Gerald Strickland は、遅刻の常習犯で4日間連続で遅刻して来た Marty と Marty の彼女の Jennifer Jane Parker に廊下で遅刻の反則切符を渡す。この時、Strickland は、Jennifer に対しては、ラストネームにタイトル“Miss”を冠して一般的な呼びかけをする一方で、Marty に対しては、ラストネームのみで呼びかけており、2人の呼称は対照的なものとなっている。続けて Strickland は、Marty の生活態度について説教を始める。過去に Marty の父親も教えたことのある Strickland は、ついでに父親も出来が悪かったことを話題にする。その結果、(7)の会話の中だけでも Marty に対するラストネームのみの呼称が5回確認される。この場面を含めて、Strickland は、女子生徒に対しては同様の呼称を1度も行っておらず、また、実際に1955年にタイムスリップしてみると、Strickland が Marty の父親にラストネームのみで呼びかけていることから、男性の方がラストネームのみで呼称される傾向が強いと言えよう。

続けて、次の用例を検討してみる。

- (8) George: Now, now, *Biff*, now, I never noticed any blindspot before when I would drive it. Hi, son.
- Biff: But, what are you blind *McFly*, it's there. How else do you explain that wreck out there?
- George: Now, *Biff*, um, can I assume that your insurance is gonna pay for the damage?
-
- Biff: Hello, hello, anybody home? Think, *McFly*, think. I gotta have time to get them re-typed. Do you realize what would happen if I hand in my reports in your handwriting? I'll get fired. You wouldn't want that to happen would you? Would you?
- George: Of course not, *Biff*, now I wouldn't want that to happen. Now, uh, I'll finish those reports up tonight, and I'll run them on over first thing tomorrow, alright?

Biff: Hey, not too early I sleep in on Saturday. Oh, *McFly*, your shoe's untied. Don't be so gullible, *McFly*. You got the place fixed up nice, *McFly*...

これは、作品冒頭部分の1985年である。高校時代から、クラスメイトである *Biff Tannen* に都合の良いようにこき使われ、自分が *Biff* をファーストネームで呼んでいるにも関わらず、常に *Biff* にラストネームのみで呼ばれてきた *George* は、家庭を持った現時点でもその状況が続いている。ここでは、*Biff* が *George* から借りた車が欠陥車であった為に事故を起こしたのだと言いがかりをつけているが、*Biff* は会社で自分の上司に当たる立場にあることから *George* は彼に頭が上がらないのである。このように、この用例に関しては、双方向的なラストネームの使用とはなっていないが、確かに男性間でラストネームのみの呼称がしばしば行われ得ることが認められた。

尚、他の呼称や言及と同様に、継続的にラストネームのみが使用されるとは限らず、状況によって変化するものであることは想像に難くない。

それを示した興味深い例も、加えて概観しておきたい。

(9) *George*: See, there's *Biff* out there waxing it right now. Now, *Biff*, I wanna make sure that we get two coats of wax this time, not just one.

Biff: Just finishing up the second coat now.

George: Now *Biff*, don't con me.

Biff: I'm, I'm sorry, *Mr. McFly*, I mean, I was just starting on the second coat.

George: That *Biff*, what a character. Always trying to get away with something. Been on top of *Biff* ever since high school.

.....

Biff: *Mr. McFly*, *Mr. McFly*, this just arrived,...

(9)は、作品の終盤である。*Marty* が、タイムスリップして介入したことで、歴史が改変され、ここでは改変後の新たな1985年となっている。*George* が作家として成功を収めている一方で、*Biff* は自動車整備業を営み、*George* の家に出入りして車にワックスをかけている。(8)と(9)を比較すると、呼称の違いが明らかである。*George* から *Biff* への呼びかけでは、変わらずファーストネームが用いられているが、*Biff* の第二発話と第三発話で確認されるように、*Biff* から *George* への呼びかけは、タイトルを付したラストネームへと変化している点が注目に値する。とりわけ、これまでラストネームのみを用いてきた *Biff* が、ファーストネームを使用する過程を省略して、突然正式なタイトルの付いたラストネームに切り換えている様が状況の変化を如実に物語っている。

最後に、ラストネームのみの使用に関して、特殊な例を考察しておく。

(10) *Marty*: Alright, alright, okay *McFly*, get a grip on yourself. It's all a dream. Just a very intense dream. Woh, hey, listen, you gotta help me.

ここでは、朝、タイムマシンに乗った *Marty* が、落ち着くよう自分に言い聞かせている場面である。これまでの用例とは大きく異なり、*Marty* は、独り言の中で自分にラストネームのみで呼びかけている。このように、自らの個人名を自分に向けて発すること自体が特殊であるが、さらに、親しみのあるファーストネームではなく、敢えてラストネームを選択している点で、非常に気負った印象を与えていると言える。

3. むすび

以上、*Back to the Future* を題材とし、登場人物間で行われる呼称及び言及行為を親族名称の使用と個人名の使用の二点から検討してきた。

前者については、親族間で話者が話し相手の前でその場にいない親族に言及する際に、相手の立場から捉えた親族名称を使用する例が確認された。そして、話者が話し相手の前で自身に言及する時にも、敢えて話し相手から見た親族名称を用いる例が認められた。これは、親族名称による双方向的な作用を期待したものとと言える。

後者に関しては、男性間において話し相手に面と向かってラストネームのみで呼びかける例が散見された。しかしながら、他の呼称と同様、この種の呼びかけが永続的に行われるとは限らず、人間関係の変化が要因の一つとなり、ラストネームのみによる呼称からタイトルが付いたラストネームによる呼称等へと変わり得る。さらには、このラストネームによる呼称は、対人関係においてのみならず、独り言の中にも確認された。この場合は、話者が自分を客観的に捉え、自らを鼓舞した結果であると言える。

参考文献

- Crystal, David. 2003. *The Cambridge Encyclopedia of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fasold, Ralph W. 1990. *The Sociolinguistics of Language*. Oxford: Basil Blackwell.
- 真鍋和瑞. 2009. 『ことばの散歩道』 東京：開文社.
- Quirk, Randolph, Sydney Greebaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (eds.) 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Romaine, Suzzane. 2001. *Language in Society: An Introduction to Sociolinguistics*. New York: Oxford University Press.
- Thomas, Jenny. 1995. *Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics*. London: Longman.
- Zenneckis, Robert / Gale, Bob. 1985. *Back to the Future*. [DVD]. New York: Universal Pictures.

On Human Relations and the Use of Address Terms and Reference Terms
in *Back to the Future*

Kasamoto Teruyo

Abstract: In this paper I shall examine how kinship terms and personal names are used as address terms and reference terms among characters in *Back to the Future* released in 1985. This work is not only an American science fiction film that depicts breakthrough technology with the theme of time travel, but also a sympathetic human drama that focuses on family ties. I would like to discuss the use of these two terms considering the difference of social situations between 1950s and 1980s. With the regards to kinship terms, among relatives, it is confirmed that when the speaker refers to his/her relative who is not present in front of the person spoken to, he/she uses the kinship term taken from the point of view of the person spoken to. Even when the speaker refers to himself/herself in front of the person spoken to, there is an example of using the kinship term taken from the perspective of the person spoken to. It can be said that this is expected to have a bidirectional functioning of the term. As for personal names, among men, there are several cases where the speakers address to the persons spoken to by their last names without titles. However, as with other address terms, this kind of address is not always used and can be different due to the change of relationship. Furthermore, the address is use not only in interpersonal relationships but also in soliloquy. In this case, it can be said that the speaker objectively grasps and inspires himself.

Key words: *Back to the Future*, kinship terms, title, address terms, reference terms

Received March 31, 2021